

県外派遣報告書

審判員名	萩野 晃司	所属	社会人連盟
大会名	JSB関東ブロック審判講習会		
期間	8/17～8/18		
会場	所沢市民体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月17日	座学研修会	所沢市民体育館	
8月18日	実技講習会	所沢市民体育館	
会議 講義 内容			
JAB派遣講師 針生淳男氏(東京都S級)			
3PO Basicメカニクス			
3POメカニクについてクルー間で齟齬があっていけない。 判定に関するミスは、多くがクルーのメカニクに起因し発生する。			
エリアの分担	プライマリーエリアの確認		
アングルの分担			
プライマリーの確認 マッチアップには表裏がある。トレイルエリアでもリード・センターが確認するプレーがあり、プライマリーではないので判定しない・確認しないということではない。			
ローテーションの基本			
リードメカニク T→Lへのトランジション 顔はコートに向けたまま 45° の角度を保つ。ポイントはリングの先端が見えているかどうか。 ボールサイド/ストロングサイドの見極めも必要だが、早めのローテーションを心がける。 ノッキングはクルー全体のリズムを崩し、クルーワーク(ミスしたレフリー自身にも)に重大な影響を及ぼす事がある。 ローテーションでミッドラインを越えたらローテーションを完成させる。 ショットクロックが残り5秒を切ったらローテーションは行わない。ただし、EOQ・EOGでラストショットをカバーする必要があるればローテーション <u>う</u> を実施する。 3Pについてはリードから確認できたもの(速攻からのサドンショットなど)に対しては改めてリードからピークすることを徹底しフラッシュすること。 トレイル/センター側から始まるおボジ <u>っ</u> とプレーに対してはリードはセカンダリーを意識して一呼吸おいてからコールすることを意識する。 クロスステップ・オープンアングル&45° (ワイドポジションを取る)			

トレイルメカニク

スローインされたボールの後ろから必ず追従する。この時、プレーに近づきすぎない。

3Pライン付近でのふれーについてはプレーに合わせたクロスステップを行う。

センターメカニク

ワーキングエリア

- ①フリースローラインの延長線上(セットアップポジション)
- ②フリースローサークルの間でポジションをアジャストする。

NOPressの場合はCtoC Run

クロスステップ オープンアングルの状態からプレーにピークするイメージ(半歩の動き)

センターサイドのハイレベルアタック →センター主導でのローテーションはない。

必ずリード主導で行うので、リードがスイッチするまでハイセンターでポジションキープ。

リードのローテーションですぐにトレイルに移動せず、ペイントエリアのコンタクトをしっかりと確認して確実に引継ぎを行うことリードはセンターのプライマリーを感じる。

センターが決断すべきケースで決断しきれない原因はブアメカニクスに起因している
(チェックアウトが出来ていない)

3PO全体のカバレッジについて

ミッドラインを真っ直ぐ進むドライブについてはストロングサイド:L、ウィークサイドは:Cのプライマリー意識を持つこと。ダブルコールは致し方ない時もある。必ずプライマリーテイクを。

リバウンドのカバレッジ 1人のレフリーが1~2ペアを持つように。

プレイの再開時に次に起こるプレーを予測してボールを渡すように。

ファンダメンタル

OBB:3POの場合、オフボールに目を当てることある為、分からないケースが出てくる。

分からなかったらボディランゲージで分からないことを伝える。

ミスがあった場合は歩み寄ってプライマリーのレフリーが訂正する。

24計/ゲームクロックの管理

時限の終わりとショットクロックの終わり どちらが先に成立するのか意識すること

時限の終わりの管理

残り時間5秒以上ある時はオホットレフリーがラストショットの担当。バックコートで攻守が入れ替わり

残り時間5秒未満の時はセンターレフリーが担当する。

クルーの連携

ワーニングに対するベンチニアサイドでのクルーとしての協力

ショットファウルに対するフリースローシューターの確認

誰か一人はコート内で起こっていることを理解する

チームファウル数3回目/4回目をクルー内で確認する

JSB派遣講師 北沢岳夫氏(岩手県S級)

プレーコーリングガイドライン(20190801最新版)

悪い手の整理

始まりがどちらかを把握すること。アクション・リアクションを把握し瞬間的に判断すること。

イリーガルスクリーン

クリップを見てディスカッション Cのプライマリーエリア・Tのプライマリーアングルの場合、PGCで共有しておく信頼関係を崩さないことになる。

ブロックorチャージ

オフェンスに明らかに責任がない大きな触れ合いはディフェンスファウルを強く意識すること。

プロテクトシューター

ディフェンスプレイヤーに悪気がない触れ合いもあるが、シューターにとっては大きな怪我等に繋がる可能性がある為コールすること。小さな触れ合いではあるが影響が大きくなるという認識を忘れない

UF・TF・DQはクリップを見てディスカッション

実技

担当試合	期 日	8月18日	男子	
	対戦カード	エクセレンス VS JR東日本東京	CC	
	相手審判	U1・藤原氏(栃木) U2・竹園さん(東京)		

主任 針生淳男氏(東京S級)

メカニクスについて大きな崩れは無くスムーズ行われていた。ただ、ボールウォッチャーになり、L→CやLのローテーションが遅れてしまうケースがあるのでチェックイン・チェックアウトの意識を持つこと
クレーン間でももう少しアイコンタクトや情報の共有をしてゲームがどのように進んでいるのか、どんな所が問題なのかを話し合い未然にトラブルを防ぐ必要がある。コミュニケーションの取り方。

全体の感想

今回JSB関東ブロック審判講習会に派遣して頂きありがとうございました。3POでのゲーム運営が必須の中、大まかなローテーションやプライマリーエリア・アングル等は意識できていますが、もっと細かくメカニクスの理解をしていかなくは正しい判定に結びつかないこと・クレーンワークの大事さを今回の講習会で勉強させて頂きました。クレーン間での情報共有がミスを防ぐことにも繋がるので積極的にコミュニケーションを取れるようにしていきたいです。

最後になりますが、今回の開催にあたりご尽力いただきましたJSB関東ブロック審判長をはじめJSB派遣講師のお二人方、東京都社会人連の皆様には感謝申し上げます。

また、埼玉県代表として派遣していただきました埼玉県バスケットボール協会の皆様には感謝申し上げます。少しでも埼玉県協会に還元できますように努めていきます。ありがとうございました。

~~注) この報告書は、あくまでもベースです。加工して皆さんにわかりやすく報告することに問題はありせん。写真、図等を差し込むこともいいことだと思います。~~